

岩手県産女川上流域

〔磐井川と産女川の合流点より上流〕

地形地質 産女川上流域は栗駒山東側の山麓斜面で、県境を境にドゾウ沢の北側に位置します。地質は砂岩・泥岩互層の上に栗駒山の火山噴出物（溶岩・凝灰角礫岩）が分布しているのが特徴です。

被災状況 産女川上流部できわめて大規模な地すべりが発生しました。大量に発生した不安定土砂の一部は土石流（岩層流）となって約1.5km下流域まで流下しています。山腹崩壊箇所は36箇所と他の流域と比べて少ないのですが、870万m³もの不安定土砂が発生しています。発生した不安定土砂のほとんどは上流部の大規模な地すべりによるもので、発生源近辺には膨大な量の不安定土砂が残留しています。



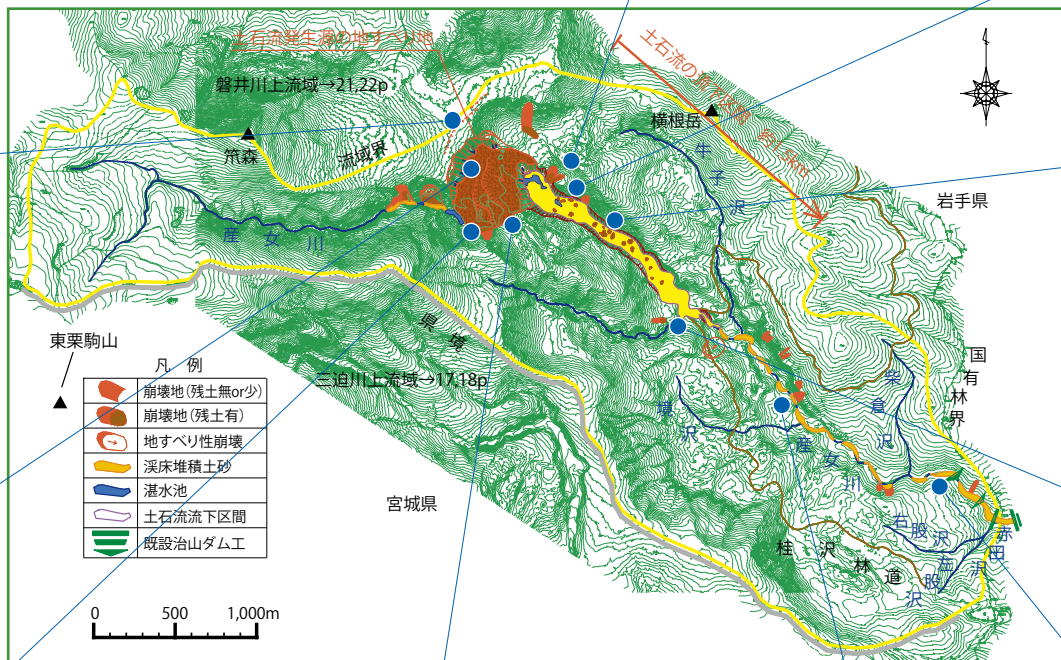
産女川上流で発生した大規模な地すべりと土石流



産女川上流 大規模な地すべりにより流出した大量の不安定土砂



産女川上流 地すべり頭部の背後に確認された拡大性の亀裂



産女川上流 流出した不安定土砂による溪流荒廃状況



産女川上流 地すべり頭部にむき出しになった巨大な滑落崖



産女川上流 溪流荒廃状況



産女川上流 地すべり全景



産女川上流 土石流となって土砂が1.5kmにわたり流下



産女川中流域 山腹崩壊状況



既設の治山ダムにより土石が捕捉され、下流側には泥流のみが流下し、下流域への被害を最小限に抑制している。なお、当箇所には土石流センサーを設置し、警戒している